

“おきなわ和牛”でプレス懇談会開催—ミートコンパニオン等が



(株)ミートコンパニオンは7日、同社グループのアグリス・ワンミートセンター(吉田安夫センター長)で「おきなわ和牛」のプレス懇談会を開催した。当日はJA沖縄県農業協同組合畜産部肉用牛チームの名嘉正部長、専門新聞各社、日格協の松原骨間切開)視察・研修③おきなわ和牛の評価などについて情報交換した。

沖縄の肉牛生産は、主たる飼養形態が肉用種雌4万9100頭による繁殖・子牛生産で、和子牛は年間約4万頭生産し全国4番目の素牛供給基地だ。しかし肥育は発達途上で肥育頭数は約4800頭と少なく、うちJA沖縄農協が56%の2700頭を肥育する。そこでコンパニオンとJA沖縄農協による販売連携が2年前から進み、名古屋ルート販売とは別の販売ルートの摸索が開始された。今回のプレス懇談会は、(株)食肉通信社主催の食肉産業展で来場者の注目を集め、試食も用意した15kgのおきなわ和牛があつという間に無くなるという好調な結果となり急速、地元紙及び畜産・農業・流通専門誌との情報交換の場を設けたもの。

JAの名嘉上席は、沖縄の和牛について①但馬系でやや小ぶりで、大型化の改良はあまり進んでいない。枝肉重量は450kg前後で、販売・流通業者にとつても取扱いが容易②ブランドとしてもまだ認知度が低いため、今年中にも“おきなわ和牛銘柄生産販売協議会(仮称)”を立ち上げ、ブランド化を目指したい意向だ③太陽の光と海の潮風の恵みの基で肥育された子牛を、沖縄の恵みである安全・安心のサトウキビ(搾りかすのバクスを含め)やパインアップル(皮)を粗飼料に、TMRセンターを活用し、飼養管理マニュアルに沿った配合飼料の供給と給与により“沖縄の海水と沖縄育ちの安全・安心な和牛”を安定供給する④今後約5年で、生産供給体制の整備によりおきなわ和牛として年間8千頭、内4500頭以上をJAが供給する方向で計画中だ⑤流通の整備は、現在の大里村(沖縄県食肉センター)にカット施設を新たに建設する方向で検討し、ボックスマート販売の実現化などの課題をけて前進中だなどと述べた。

日格協和光事業所によると、平成20年度のおきなわ和牛取扱頭数は199頭で、肉質等級5は全体の6.0%、4が32.7%、3は46.2%、2は15.1%であった。また今回12頭のと畜した枝肉については、脂肪交雑(BMS)はそこそこ(平均4.1)であり、肉質は色が濃く、キメ・締りに問題ある枝肉も見られたとのコメントが寄せられた。